

日々の活動の様子



高齢者世帯への訪問



登下校の見守り



定例会での勉強会



生委員・児童委員の顔を覚えてもらう機会にもなったと思います。さらに、児童委員としてどう貢献しようかと考え、小学生の登校の見守りをすることに

先日は、小学校での福祉体験を行いました。福祉について知ってもらい、子どもたちに民生委員・児童委員の顔を覚えてもらう機会にもなったと思います。さらに、児童委員としてどう貢献しようかと考え、小学生の登校の見守りをすることに

時代や地域での関わり方が変化しても、困っている人のために

と瀬戸 祥江さん(三里木4～7組)

ハードルの高い仕事ではないと気づいた

区長さんと前任者から声をかけられたときは「私が誰かのサポートをするなんて」と思い、断ったこともありましたが、知り合いの人が別の三里木地区の民生委員・児童委員をしていると知り、「それならば私もやってみようか」と勇気が湧き、引き受けることにしました。

普段は、高齢の単身世帯を訪問しています。その時に会話のきっかけになればと、防犯や健康などに関する手紙を自作して渡しています。文字を大きくして、話題も訪問する世帯から挙がったことを取り上げ、興味を持つてもらえるように工夫しています。

先日は、小学校での福祉体験を行いました。福祉について知ってもらい、子どもたちに民生委員・児童委員の顔を覚えてもらう機会にも

しました。これまでも転んではがをする子どもや、通勤ラッシュの時間に危険な運転をする車を見ていたので、旗を自分で作って、毎朝近所で見守りをしています。いろんな子どもがいますが、あいさつが苦手そうな子ども、毎日顔を合わせるうちにあいさつをしてくれるようになって、とてもうれしいです。

初めは、民生委員・児童委員の活動はハードルが高いと思っていたのですが、やり始めるとそうではないと分かりました。困り事があれば、定例会や校区ごとの会議のときに、他の委員に相談することもできます。

三里木地区には2人の民生委員・児童委員がいます。それぞれ2期ずつ務めることで、活動が途切れず、フォローし合える体制にしているので、安心して活動できます。

また、高齢者から、「困っているけど誰に相談したらいいのかわからない」と言われることがあります。時代や地域住民の関わり方が変わっているのは私自身も感じますが、だからこそ民生委員・児童委員は必要な存在だと思っています。

あなたの地域も見守られ、支えられている

地域で活動する2人の話から、時代や社会が変化する中でも、地域の横のつながりを深めることで、より住み心地のいい地域となることが分かりました。

あなたが住む地域、そしてあなた自身も、民生委員・児童委員をはじめとする多くの人に支えられています。そして、そこから始まるつながりが、魅力ある地域づくりの一步になります。

民生委員・児童委員の活動に興味がある人へ

今年12月に民生委員・児童委員の一斉改選がありますが、委員の中には健康上の問題や家族の介護などで、活動を継続できず、後任者を探している地区もあります。

町では、民生委員・児童委員として地域で活動する人を募集しています。町に住民票があり、おおむね75歳未満の人など要件はありますが、活動に興味がある人は福祉課または社会福祉協議会へお問い合わせください。

私たちと一緒に 民生委員 児童委員 として活動しませんか

福祉課 地域福祉係 ☎(232)4913
社会福祉協議会 ☎(232)4824



町には、現在、56人の民生委員・児童委員がおり、日々それぞれの地区で福祉活動を行っています。民生委員・児童委員の活動にやりがいや魅力を感じる人、挑戦してみたいけど不安を感じる人は、いつでも気軽にお問い合わせください。

民生委員・児童委員は
どんな人？

誰もが安心して住み続けられる地域づくりのために活動するボランティアのことです。住民の立場で相談に乗り福祉に関する情報を提供したり、町の福祉事業活動を行ったりしています。

活動内容

主に、地域での活動、定例会、研修に取り組んでいます。

地域では、高齢者の見守りや災害に備えた防災訓練、小・中学校での福祉活動、登下校の見

守りなどを行っています。住民からの相談の解決が難しいときは、町や社会福祉協議会などに

つなぐ「パイプ役」も担います。また、日頃の活動の報告や連絡調整のため、毎月定例会を開催し、委員同士で情報や悩みを共有・相談しています。

活動に必要な制度や社会資源の知識を学ぶため、委員主体の勉強会はもちろん、講師を招いた勉強会や、先進的な活動をする自治体での研修会も開催しています。今年度は屋久島町民生委員・児童委員協議会の会議に参加し、知識を深めました。

今期初めて、民生委員・児童委員になった2人に、話を聞きました。

Voice

1

地域の問題は地域の人たちで 解決していく力が求められている

まつもと 裕顕さん(津久礼ヶ丘)



住職として今の寺に入り数年経った頃、区長さんから声をかけられ、民生委員・児童委員になりました。仕事柄、普段から困っている人の役に立ちたいと思っていたので、民生委員・児童委員の役割も同じかもしれないと思い引き受けました。

活動は、主に一人暮らしの高齢者世帯の見守りをしています。私の散歩も兼ねていて、庭に出ている方とは会話を交わします。普段は家の様子が変わりないか気に留める感じですが、訪問は月に2回程行っていて、大雨のときに、「避難所に行きませんか」と電話したりもしました。

また、地域で餅つきや話し合いをするときは、公民館の代わりに境内を使うことがあります。お寺としてもいろいろな人に来てもらいたいのので、境内や本堂が空いているときはぜひ活用してもらえればと思っています。

「自分のことだけ」では
地域に孤立を生む

私は、民生委員・児童委員は

地域に必要な役割だと思っています。「自分や自分の家のことだけ」という考えでは、地域に「孤立」を生んでしまうと考えています。交流が少なくなったり途絶えてしまうと、些細なことが分断につながり、社会としては上手いかななくとも思います。

民生委員・児童委員になって、地域の問題は地域の人たちで解決していく力が求められているのだと分かりました。横のつながりは地域を活気づけてくれるし、その地域に住むと決めたのなら、それぞれがその地域に貢献すべきかなとも思っています。民生委員・児童委員は地域の中で大切な役割を担っていると感じています。

民生委員・児童委員は、普段それぞれの地区で活動していますが、定例会で顔を合わせ話し合うことで、勢いのようなものができていると感じています。困っている人の役に立ちたい、地域に貢献したいという思いは変わりませんので、引き続き民生委員・児童委員として頑張りたいです。